

臨床研究「総テストステロンなどの項目を用いたフリーテストステロン低値例の推定」について

筑波大学附属病院腎泌尿器外科では、標題の臨床研究を実施しております。

本研究の概要は以下のとおりです。

#### ① 研究の目的

欧米ではLOH症候群（男性更年期障害）のスクリーニングとして、総テストステロン(TT)が重視されています。しかしながら、本邦では、TTが加齢により低下せず、むしろ遊離テストステロン(FT)が低下することが横断研究から証明され、FTがLOH症候群の診断基準の中心となってきました。この診断基準の相違は、欧米との研究の比較において以前より問題視されておりました。もし、FTが測定されていない研究においても、その他の因子からFT低値例の割合が推定できれば、その問題の解決にあたり非常に有用であると考えられます。上記の背景から、今回の研究では、TTやその他の関連因子を用いて、FT低値の症例を推定できないかを検討しています。

#### ② 研究対象者

2007年4月1日から2015年12月31日までに当院でLOH症候群を主訴に受診された患者さん

#### ③ 研究期間：倫理審査委員会承認後～2018年3月31日まで

#### ④ 研究の方法

この研究では、LOH症候群を主訴に泌尿器科外来を受診した患者の採血結果を、後ろ向きに解析します。具体的には、年齢、TT、LH、FSH、E2、Hct、PSA、精巣容量といった各検査項目とFTの相関関係を求めます。FTと有意な相関をもつ項目を抽出し、FT低値例に対する各項目のROC解析を行い、AUCおよびカットオフ値を算出します。最後に、上記のカットオフ値を組み合わせた場合に、FT低値例をどれくらい正確に推定できるかを検討します。

#### ⑤ 試料・情報の項目

過去に得られた診療情報を用います。具体的な項目としては、年齢、身長、体重、腹囲、収縮期血圧、拡張期血圧、精巣容積、総テストステロン、遊離テストステロン、LH、FSH、エストラジオール、ヘマトクリット、空腹時血糖、中性脂肪、総コレステロール、HDLコレステロール、PSAの値です。

#### ⑥ 試料・情報の第三者への提供について

該当しません。

#### ⑦ 試料・情報の管理について責任を有する者

木村 友和 筑波大学臨床医学系泌尿器科 講師

#### ⑧ 本研究への参加を希望されない場合

患者さんやご家族（ご遺族）が本研究への参加を希望されず、試料・情報の利用又は提供の停

止を希望される場合は、下記の問い合わせ先へご連絡ください。すでに研究結果が公表されている場合など、ご希望に添えない場合もございます。

⑩ 問い合わせ連絡先

筑波大学附属病院：〒305-8576 茨城県つくば市天久保 2-1-1

所属・担当者名：泌尿器科 担当 木村 友和

電話： 029-853-3223 ・ FAX： 029-853-8854

（対応可能時間「平日9～17時」）